活用場面の類推による学習転移の促進を目指した内省支援ツールの再設計と形成的評価

ー看護師を対象としてー

Redesign and Formative Evaluation of Reflection Support Tool for Nurses aimed at Promotion of Transfer by Analogies

政岡祐輝，都竹茂樹，鈴木克明，平岡斉士
Yuuki MASAOKA, Shigeki TSUZUKU, Katsuaki SUZUKI, Naoshi HIRAOKA

熊本大学教授システム学研究センター
Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University

＜あらまし＞これまで、手術室看護師を対象に開発・導入していた内省支援ツールにおいて、「同じようなミスを繰り返し、類似事例に学びを活かすことができていない」といった問題を抱えていた。本研究では、その問題を解決すべく、独りで良質な内省が展開でき、類似場面・事象に転移できる学びが得られることを目的とし再設計した、自立自習型の内省支援ツールの形成的評価を行った。再設計にあたっては、これまで問題となった学習者に対し暗黙知的に行ってきた「学びを活用する場面を考える」という学習方略に着目し再設計を行った。形成的評価の結果、現行の内省支援ツールで問題となっていた、「同じようなミスを繰り返し、類似事例に学びを行かせていない」という問題は発生せず、使用者からは内省の促進、学習転移に対する自信の獲得を示唆する意見を得ることができた。

＜キーワード＞内省、支援ツール、類推、学習転移、看護

1. はじめに

医療現場で教育を行う中では、医療安全上の問題、時間・機会的問題、人的問題の問題がある(政岡 2015)。これらを踏まえ、これまで手術室配属となった新人看護師を対象とし、臨床現場から離れた場での内省を支援するため、記述式の内省支援ツールを開発・導入してきた。その中で、介入者の力量が、学習者の内省の成果に影響を及ぼしてしまうといった問題を抱えていた。また、内省支援ツールの中で、学びとして記述した内容が、その後経験する類似事例に適応されず同じ様なミスを繰り返すスタッフがいる、といった「学びの実践への転移」に関する課題も抱えていた。そこで、現行の内省支援ツールの問題点を解決し、「独りで良質な内省が展開でき、類似場面・事象に転移できる学びが得られる」を目的とし、内省支援ツールの再設計を行っている。本研究では、再設計した内省支援ツールの形成的評価を行った。

2. 再設計した内省支援ツール

「同じようなミスを繰り返し、類似事例に学びを活かせていない」といった問題を抱えたスタッフに対し、「もし、その場面に遭遇したらどうしていくのか」といった質問、記述した内容を今後どのような場面に適応できるかを考えさせる、といった対応を行うことで問題解決が図れていた。そこで、これまでの「印象に残ったこと」、「感じたこと」、「上手くいったところ・上手くいかなかったところ」、「原因分析」、「解決策」といった記述項目に、「学びの活用場面を考える」という学習活動を付与した。さらに、セルフフィードバック項目も追加し、再設計を行った（政岡 2016)。再設計した内省支援ツールの使用頻度は、1ヶ月ごとを目安とし、項目⑦～⑩は、項目①～⑥を記述約１ヶ月後に取り組んでもらうこととした。

3. 形成的評価

3.1 形成的評価の方法

以下のような形成的評価を行い、内省支援ツールを改良していくこととした。

- 所属部署における１対１評価・小集団評価
- 筆者の所属施設外かつ手術看護外の領域において教育・指導の役割を担っている看護師によるエキスパートレビュー
- 他施設における１対１評価・小集団評価

評価方法は、内省支援ツールへの記録内容、使用状況のほか、所属部署の協力者に対しては、使用後のヒアリングおよび教育担当者による行動観察を実施した。エキスパートレビュー、他施設の協力者に対しては、Web アン

ケートにて調査した。

3.2 評価項目

評価は以下に示す視点で行った。

- 学びを活かす場面を考えることは学びを実践に活かすことに効果があるか
- 独りで内省が展開できるか
- 学習者が内省支援ツールを使っていきたい、教育担当者が使ってみたいと思えるか

なお、内省支援ツールを再設計したことに生じる記述所要時間の増大等のデメリットに関しても評価することとした。

4. 形成的評価の結果

4.1 形成的評価の中での改良

所属施設での１：１評価、小集団評価では、記載に２時間以上かかるスタッフいたため、質問項目の修正と項目の整理を行った（表１）。また、「イラストが入っていると少しは使ってみたくなるかも」、「一年間やるなら、そこを見ればどの時期かとわかったり、ファイルに挟んでしまうと見にくいので、パッとわかるようになっているといい」との意見を受け、レイアウトやイラスト挿入の改良を行った（図1）。

4.2 「学びの活用場面を考える」ことを追加したことの効果

筆者の所属施設で協力を得られた７名を対象とした小集団評価の中では、「具体的に考えないと、結局動けないので、こうやって考えるのはよかったと思う」等と、内省の促進、学習転移に対する自信の獲得を示唆する意見が得られた。また、４ヶ月間おこなった筆者の所属施設における教育担当者による行動観察では、「同じようなミスを繰り返し、類似事例に学びをいかせていない」といった問題は発生しなかった。

4.2 独りで内省が展開できるか

エキスパートレビューでは 16 名の協力が得られた。自由記載において、他者の介入は必要との意見が多くみられたが、筆者の所属部署、他施設問わず、使用方法、記述すべきことがわかならないといった問題は発生しなかった。

4.3 内省支援ツールを使っていきたいか、使ってみたいか

筆者の所属部署では、使用した７名全員が再設計した内省支援ツールを使用していくことに肯定的意見であった。また、３施設８名の協力が得られた他施設における小集団評価の結果においても、85.7％の看護師が内省支援ツールを使用していきたい、100％の看護師が内省支援ツールは実際に使えるとの回答を得た。

5. 今後の課題と展望

本研究において、再設計した内省支援ツールは、筆者の所属部署で抱えていた問題の解決につながる示唆を得ることができた。しかしながら、限られた使用期間での評価であり、どこまで使用を継続してもらえるか、繰り返し使用することで内省が深化していくかといったことは検証できていない。今後、本ツールを使用しての長期的な評価を行っていきたい。

表１　再設計した内省支援ツール

① 今週/今月で特に印象に残っている経験や受けた指導を思い出し、その時どんなことをしたのか（行為）、どんな感情を抱いていたのかを具体的に記載してください。
② ①で記載してものを振り返り、上手くいったところと上手くいかなかったところを記述してください。
③ ②を踏まえ、なぜ上手くいったか、なぜ上手くいかなかったか、その原因を分析し、記述してください。
④ ③で考えたうまくいかなかった原因（＝課題）を解決するために、取り組むべきことを考え記載してください。なお、何を・いつまでに・どこで・どうするか等、より具体的に記載してください。
⑤ ①～③を踏まえ、学んだことや教訓は何ですか？どんな行動、考え方、姿勢が必要ですか？
⑥ ⑤で、記述した学びや教訓を活かす場面を考えてください。
－セルフフィードバック項目－
⑦ 遭遇した場面、遭遇しなかった場面を記載してください。
⑧（遭遇した場面に関して）学んだことが活かせましたか？ □　活かせた ・ □活かせなかった （活かせなかったものに関して） 活かせなかった原因を分析、今後の対策を記載してください。
⑨（遭遇しなかった場面に関して）なぜ遭遇しなかったのか、その原因を記載してください。⑥で生かせると考えた場面が間違っていた場合は、再度「学びや教訓を活かせる場面」を考え記載してください。
⑩「学び」「教訓」を再度考え記載してください。

図１ 改良した内省支援ツールのレイアウト
項目の数字は表1と対応している

付記

本発表は、筆頭著者が共著者の指導の下に提出した修士論文に基づいている。

参考文献

政岡祐輝(2015)どう作り,どう教える？臨床現場のシミュレーション研修. http://www.igaku-shoin.co.jp/paperDetail.do?id=PA03110_02(参照 2017.07.10)

政岡祐輝ほか（2016）活用場面の類推による学習転移の促進を目指した内省支援ツールの再設計,日本教育工学会第 32 回全国大会講演論文集:401-402